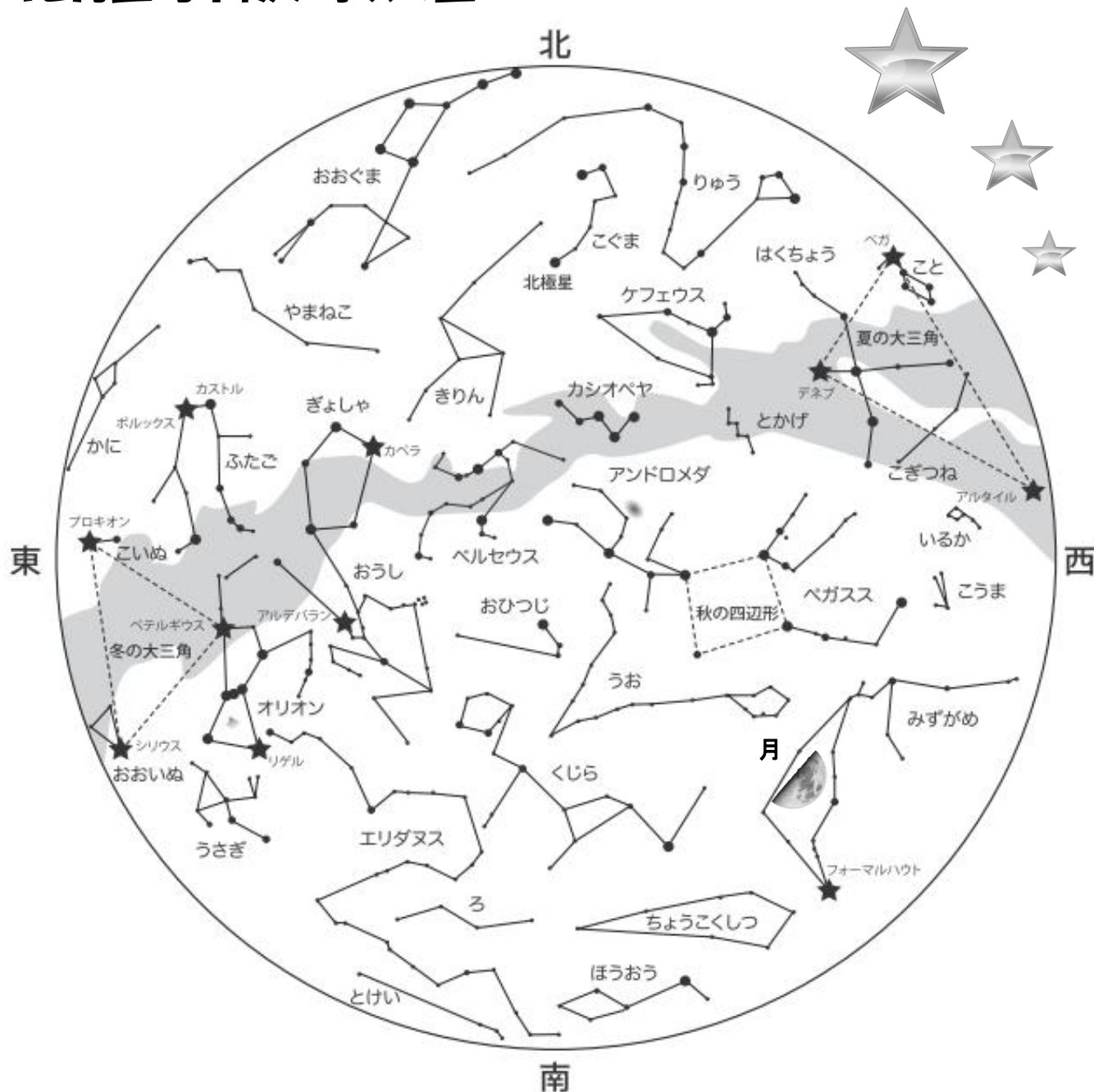


松江市立天文台～12月の天文教室～

令和元年12月4日

12月上旬午後9時頃の星



12月上旬午後9時頃の星空です。
月の位置は12月4日現在で見かけの大きさは強調してあります。
星座を探すときは、見る方角を下にします。

いよいよ冬本番ですが、暗くなった空を見ると、西の空にはまだ夏の大三角が見えています。これは、12月の冬至に向けて日が短くなり、暗くなるのが早くなるので起こる現象です。南の空には「みなみのうお座フォーマルハウト」がみえています。東からは、冬の星座達が続々昇ってきています。おうし座、ぎょしゃ座、オリオン座、ふたご座など、1等星のある、見つけやすい星座です。

今夜の月

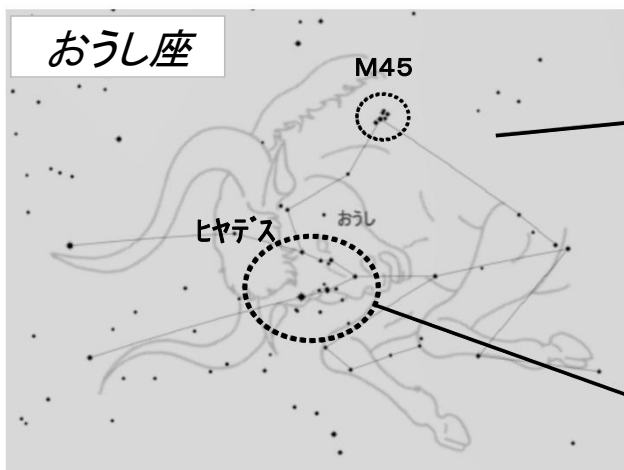
今夜の月は、上弦の月~ちょうど半月に見えています。
太陽の光が、真横から当たる位置関係にあるので、地形がよくわかります。
天体望遠鏡だけでなく、双眼鏡でも楽しめます。



冬の星雲・星団

冬の星空は数々の星雲、星団が見られます。
ここで紹介するのは、天体望遠鏡を使わなくても、肉眼でも見つけられる天体です。

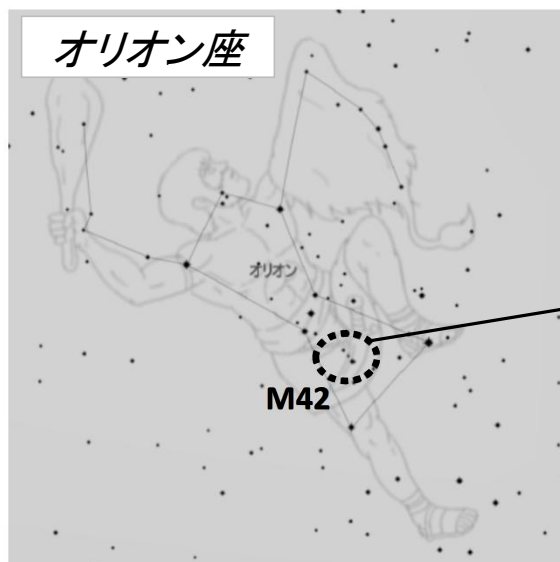
おうし座



M45(プレアデス星団)は「すばる」という和名も持つ有名な散開星団です。肉眼でも特徴的な形がわかり、双眼鏡では空の宝石のように見えます。星の数は130、距離は410光年です。

ヒヤデスはおうし座の顔を形作る星団で、赤い1等星アルデバランを中心とする星団が肉眼でもわかります。

オリオン座



松江星の会
古都さん撮影

冬の星座の中でもオリオン座は特に有名です。星座に詳しくなくても、見たことがあるのではないのでしょうか。

M42は、暗い空では肉眼でも確認でき、双眼鏡で鳥が翼を広げたような形に見えます。

その正体は宇宙空間のガスが周辺の星の光に照らされている散光星雲で、1300光年の彼方にあります。

- 空のコンディション(透明度・雲)等で、天体の見え方は違います。
- 使用する天体望遠鏡によっては、視野の上下左右が逆にみえることがあります。
- 天文のデータは主に天文年鑑から引用しています。
- 星図、写真等の引用元は次のとおりです。
「国立天文台」、「ステラナビゲータ11/株式会社アストロアーツ」

次回の天文教室

開催日 12月26日(木) 14時30分から16時30分
部分日食観察会(太陽が3分の1くらい欠けて見えます)
事前の予約は不要です。



★ Matsue Astronomy Club
MAC 松江星の会